

## 令和6年度 ふくいの食育・地産地消推進県民会議 会議録

1. 日 時 令和7年3月21日（金）14:00～15:00

2. 場 所 福井県庁 B1F 正庁

### 3. 議事

(1) 第4次ふくいの食育・地産地消推進計画」に基づく県の取組み報告

県より計画案について説明

(2) 食育・地産地消の推進に係る各団体の取組み紹介

各団体より取組状況を説明

(3) 質疑応答・意見・情報交換

質疑応答は以下のとおり

- ・質問①：令和7年度の県の食育・地産地消に係る施策において、令和6年度と変わった点はどこか。【参加団体】
- ・回答①：「ふくいの食育推進事業」は、小中学校の学校給食に、地場産食材を使用した副食を追加し、食育を推進する「地場産プラスワン事業」が新たな取組。栄養教諭向けの研修やアイデアメニューコンテストは令和7年度も継続予定。  
「省塩プロジェクト」については、「ふくい100彩ごはんキャンペーンの実施」が新たな事業。これまでは、お店のメニューを認証して、県民の皆さんにお知らせしてきた。認知度が低いことが課題であり、知ってもらい、食してもらうための事業にシフトしていく予定。内容は、ふくい100彩ごはんを食べていただいた応募者の中から抽選で景品（ハピコインの付与、県産品の贈呈）があたるキャンペーンを予定。「減塩」を前向きに捉えてもらうため、「省塩」という言葉を使用し、食生活改善推進員による事業所訪問等を通じて、普及啓発を強化していく予定。【県】
- ・質問②：第4次ふくいの食育・地産地消推進計画の「農林漁業体験をしたことのある人の割合」が、令和5年度から令和7年度にかけてかなり大きく減っている印象を受ける。その理由は。【参加団体】
- ・回答②：令和5年度は計画策定期間に合わせて、県民アンケートを実施。令和6年度は食と農の博覧会でアンケートを実施。どちらも1000人規模のアンケートで、今回の結果では下がったと出ているが、1年限りの状況だとなかなか見えてこない。今後も継続的にアンケートを取っていき、年代別状況などもみながら、対策などをしていきたい。統計的に調べているわけではないが、話をお聞きしていると、コロナの時に屋外イベント等がなくなり、それ以降も復活しきっていないという話も聞いている。そのあたりは、今後も情報収集をしながら、原因分析をしていきたい。【県】

参加団体からの主な意見は以下のとおり

- ・小売店・取引先から県内産の青果物がほしいとの要望たくさんがあるが、市場になかなか集まらない。青果の立場から言うと、なぜ市場に福井のものが集まってこないのかは、重要な問題である。【参加団体】
- ・学校給食の地場産率が下がっている。価格が高い、量が少ないなど原因はあると思う。この会議の開催も大切であるが、下がっていることについて個別の検討を行うと、もう少しちゃんとした意見が出てくるのではないか。【参加団体】
- ・第3次ふくい食育・地産地消推進計画の指標「朝食を毎日だれかと食べる人の割合」は、令和5年度は54.8%と目標値に届いていない。毎日だれかと食べるというのは、他の家族たちは台所で用事をしながら子どもひとりがポツンと食べているという状況も想定される。この質問では、家族が外にいて本当にこどもが1人で食べているのか、あいまい。「食べている時だれかそばにいますか？」などアンケートの取り方を変えたほうがよいのではないか。そういったアンケートの取り方だと数値が上がるのではないかと思う。【参加団体】
- ・事前提出のあった意見（内容は、以下のとおり）には、自分たちの団体においても共感できる。【参加団体】

#### ○事前提出意見

長期的な視点からは、保育・幼稚園児や小学生といったより小さい子供向けの食育活動が必要と思っており、魚や野菜等これから体を作っていく大事な食べ物に関心を持たせたい。また、それらを調理し提供してくれる家族、給食の先生等への感謝、ありがたさを伝えることが大切。特に、『家族などが食事を用意してくれるのがあたり前ではなく、大変なことを毎日してくれている』ということ、子供のうちに教えていきたい。